

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
双	ソウ ふた ならぶ ふたつ		𠃉 𠃊	𠃋 𠃌	𠃍 𠃎	𠃏	𠃐 𠃑	𠃒 𠃓	王勃詩序
雙				𠃔			𠃕	𠃖	大聖武
反	ハン タン ホン そらす そる	𠃗 𠃘	𠃙 𠃚	𠃛 𠃜	𠃝 𠃞	𠃟	𠃠 𠃡	𠃢 𠃣	王勃詩序
友	ユウ とも	𠃤 𠃥	𠃦 𠃧	𠃨 𠃩	𠃪 𠃫	𠃬	𠃭 𠃮	𠃯 𠃰	王勃詩序
収	シュウ おさまる おさめる		𠃱 𠃲	𠃳 𠃴	𠃵 𠃶	𠃷	𠃸 𠃹	𠃺 𠃻	王勃詩序

【双】上代にアメカンムリに作る字がある。平安時代に小野道風が屏風土台で2種の字体を使っている。江戸期以降は「雙」よりも「双」の方が隆盛。弘道軒には「双」だけがあり、「雙」がない。
【友】1字に2カ所の右払いがある張猛龍碑は例外中の例外。

【収】偏を2画とする字書と3画とする字書がある。康熙字典は2画としている。本書では参考にして『JIS漢字字典』に倣って3画とした。しかし「収」の異体字の「収」は『JIS漢字字典』でなぜか「支」の2画になっている。旁は本来は「支」で、説文篆文はその字体。漢代に「友」に変化したもの

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
雙	雙	双	双	双	双		双	双		双		雙 双 千祿<通> 現代中国
		雙					雙	雙				雙 現代中国
反	反	反	反	反	反		反	反	反	反		反 現代中国
友	友	友	友	友	友		友	友	友	友		友 千祿<俗> 現代中国
収	収	収	収	収	収		収	収	収	収		収 収 江戸千祿<通> 現代中国
収	収	収	収	収	収		収	収				収 収 明治の漢字 教科書<俗>
収	収						収					収 収 明治の漢字 教科書<正>

が現れ、南北朝前に「又」が出現する。陸軍幼年学校の用字便覧では、旁を「支」とする字体を本字とする。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文篆字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
取	シュ とる								
受	シュ うかる								
叙	シュク おじ								
叙	ショ のべる								

【受】甲骨の上の例が康熙古文に合致するもの。2番目が郭店楚簡と合致するもの。睡虎地秦簡は「又」の上に「一」があり、この字体は漢代まで受け継がれている。さらにその字体が「丈」に受け継がれているのかもしれない。

【叙】説文篆文に旁が「又」と「寸」の2種がある。五経文

字で〈石経〉となっている字体は、通用字体よりも点が1つ少ない。この字体は拓本版の干禄字書にもある。石が荒れていて〈通〉なのか〈俗〉なのか判然としなが、残った部分は「イ」に見えるのでたぶん〈俗〉なのだろうとおもって江戸版の干禄字書で確認すると〈通〉になっている。五経文字

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
取												取 干禄<通> 現代中国
取												取 江戸五経<説>
受												受 干禄<俗> 現代中国
												受 武威漢簡
叙												叙 干禄<?> 現代中国
叙												
叙												叙 江干禄<俗> 現代中国
叙												叙 江干禄<説> 明治の漢字活字

で〈石経〉となっているが、開成石経に使われている字体は「叙」なので、五経文字が示す石経は熹平石経か正始石経のことだろう。

【叙】説文篆文では旁が「支」だが、甲骨に従えば「又」でも良さそうなのがする。子彈庫楚簡を見ると「支」が「女」になる

のが理解できる。「支」にも縦線が中央のものと左に寄ったものの2種がある。当用漢字表の手書き原稿では「叙」だったが1946年の官報で印刷された字体は「叙」（の縦線が左に寄ったもの）。翌年、官報で「叙」に訂正された。「叙」は人名に使えない。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
叛	ハン ホン そむく								
			説文篆文	呉・谷朗碑	澄清堂帖		王僧墓誌 等慈寺碑	開成石経 廣開土王陵碑	
叡	エイ あきらか								
			説文篆文	馬王堆	甘陵相残碑		元始和墓誌 孔子廟堂碑	千祿字書 灌頂記	
睿									
			説文古文	馬王堆	魯峻碑		市比干墓文 等慈寺碑	千祿字書 嵯峨天皇	
叢	ソウ くさむら むらがる								
			説文篆文				元固墓誌 孔穎達碑	千祿字書 王勃詩序	
口	コウ くち くちへん								
			説文篆文	馬王堆	桐柏廟碑	淳化閣帖	集字聖教序	司馬遷遺像 雁塔聖教序	五経文字 王勃詩序
右	ウ ユウ みぎ たすける								
			説文篆文	馬王堆	史晨後碑	興福寺斷碑	集字聖教序	王丹虎墓誌 九成宮	九経・序 王勃詩序

【叛】北魏の王僧墓誌では、偏が「米」になっているが、これは「半」の草書を「米」と間違えたのだらう。
 【叡】千祿字書に2種、五経文字に2種の正字体がある。
 【右】書き順は中国では左払いを先に書くものが圧倒的に多い。ところが日本に伝わったのは横線を先に書く書き順だっ

たようだ。平安中期には左払いを先に書くものと、横線を先に書くものが共存するようになる。江戸期は横線を先に書くものが圧倒的に多くなり、左払いを先に書くものはごく少数になる。現代中国では横線を先に書くそうだ。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												叛 現代中国
												睿 現代中国
												叢 千祿<通> 現代中国
												叢 江戸五経<叢>
												口 現代中国
												右 現代中国

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
可	カ ばかり べし 教5常①								
叶	キョウ かない かなう 人①								
句	ク 教5常①								
古	コ ふるい ふるす いにしえ 教2常①								
号	ゴウ さげふ 教3常①								
號	②								

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												可 現代中国
												叶 現代中国
												句 現代中国
												古 現代中国
												号 現代中国
												號 現代中国

【叶】説文篆文にはなく、最も古い使用例は南北朝時代。説文に「協」の或体として「叶」の字体があり、陸軍幼年学校の『用事便覧』に「協」の古字として「叶」の字体が掲載されているがともに「叶」とは別の字種。

【句】「口」が「ム」の形になるため、「勾」の字体になること

がある。
【号】「號」の略字ではなく、初文が「号」で後に「虎」を加えたらしい。五経文字の例は最終画が省かれているが、これは誰かの名を避諱したものだらう。たぶん唐の太祖＝李虎。漱石は『ぼっちやん』中に8カ所「号/號」を使っている。

「号」の使用例は〈第一号〉、〈会議の続きだと号して〉、〈いの一に〉が2度、〈六号活字で〉の5回。「號」の使用例は〈屋號〉、〈號令を下した〉、〈鋭い號令〉の3回。